## ③ 作曲指揮専攻　※一般選抜（Ｂ日程）では、募集しません。

## 作曲「芸術音楽コース」

**入学試験科目**

**１．外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より１科目選択）**

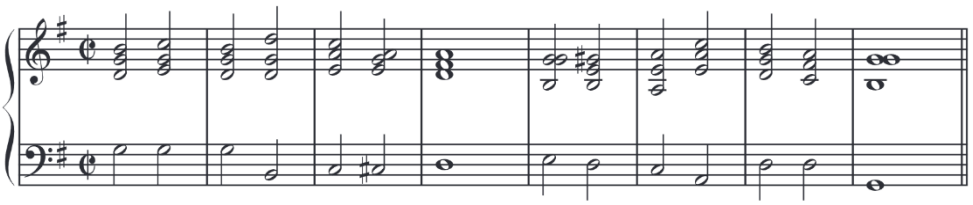
大学入学共通テストの成績を利用する。出願者は大学入学共通テストの「外国語」を必ず受験すること。
「英語」は筆記とリスニングの双方を課す。
※上記に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できる。出願時に証明書の原本を１種類提出すること（文部科学省が公表した CEFR との対照表「Ａ２」以上）
・ケンブリッジ英語検定
・実用英語技能検定試験
・GTEC
・IELTS(Academic)
・TEAP
・TEAP CBT
・TOEFL iBT®

**2. 楽　典**

**3. 新曲視唱**　8 小節程度の旋律を 1 曲
別室で 1-2 分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

**4. 聴　音**　旋律聴音（8 小節程度）・・・・　各専攻共通 1 題および専攻別 1 題
和声聴音　・・・・・・・・・・・　大譜表による四声（密集）、8 小節程度

［問題例］　G dur　ト長調　$\frac{2}{2}$ 拍子　8小節



**5. 副科実技（ピアノ）**
(1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第 1 巻、第 2 巻より任意の 1 曲（プレリュードとフーガ）
(2) 自由曲 1 曲（自作品は不可）
※（1）（2）計２曲で１０分以内。暗譜。

**6. 専攻実技**
**(1) 和　声　（イ）転調および非和声音を含むバス課題（２時間）**
**（ロ）転調および非和声音を含むソプラノ課題（２時間）**
**(2) 作　曲　与えられた動機による楽曲の創作（５時間）**
**(3) 面　接　１０分程度（作曲を志した動機等）**

# 作曲「ミュージック・メディアコース」

## 入学試験科目

※大学入学共通テストの「外国語」は課さない。

### 1. 楽　典

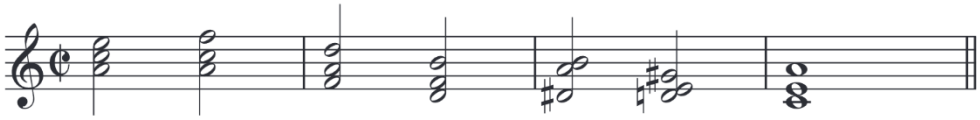
### 2. 新曲視唱　8 小節程度の旋律を 1 曲

別室で 1-2 分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

### 3. 聴　音　旋律聴音（8 小節程度）・・・・　各専攻共通 1 題および専攻別 1 題

和音聴音　・・・・・・・・・・・　高音部譜表による三和音、4 小節程度

[問題例]　a moll　イ短調　$\frac{2}{2}$ 拍子　4小節



### 4. 専攻課題

**(1) 伴奏付け（譜面作成とそのピアノ演奏）**

① 与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。
（1 時間。譜面作成時、備え付けのキーボード使用可）

② ①で「伴奏／コード付け」した結果を、ピアノで演奏する。

**(2) 和 声（２時間）**

① 転調を含むバス課題。

② 簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。

※試験開始後 1 時間でバス課題のみ提出。

**(3) 小論文（1 時間）**

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

**(4) ピアノ演奏**

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない（ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可）。
（注１参照のこと）

**(5) 面　接**

作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。特別な音楽的能力を有する者は、面接でアピールすることができる。
（注２参照のこと）

**(6) 自作曲の評価**

面接時に自作曲のデモ音源、楽譜（スコア等）を持参すること。
（注３参照のこと）

**注１　ピアノ演奏について**

基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。

**注２　面接について**

① ギター、ベース等の楽器演奏を希望する場合は、楽器を持参すること。ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。ドラムスの演奏を希望する場合は、備え付けのセットを使用すること。ただし、スネア、ペダル、シンバルは持ち込みを可とする。スティックは持参すること。

② 楽器演奏を希望する楽器名、楽曲名は専攻別曲目記入票に記入すること。

③ 電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合のアピールは、映像資料を用意すること。

④ 映像資料でのアピールは、①USB メモリに記録したデータ、②Blu-ray、③DVD、いずれかでの視聴とする。視聴できない場合のバックアップとして、必ず２つ以上のメディアを持参すること。

※ バックアップに限り、④ノート PC やスマートフォン等の持参も可とし、①～③のメディアが再生できない場合、④の提出を求める。

**注３　自作曲について**

① 音源は、自作曲のみを記録した USB メモリを面接会場に持参し、提出すること。複数曲可。その際、データ名に再生希望順を明記すること。また、バックアップとして必ず他のメディア（CD、ノート PC、スマートフォン等）に記録したものも持参しておくこと。(USB メモリで再生できない場合、これらのメディアの提出を求める。)

② 楽曲自体を考察することが目的であるため、録音状態、使用機材等は問わない。楽曲のスタイルは自由だが、楽曲のデモとして十分な状態を満たすこと。

③ 面接時に楽譜（スコア等）を５部持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、使用する楽器は基本的にピアノとする。

※ 持参・提出する USB メモリに記録するデータフォーマットは、以下の通りとする。

- 音源：WAV、または mp3
- 映像：mov、または mp4

※ 持参・提出する USB メモリは、新品を用意するか事前にフォ-マットを施したものに保存するなどして、他の用途のデータと混在させず、面接時に必要なデータのみ記録しておくこと。

※ 持参・提出した USB メモリをはじめとするメディアは、面接終了時に返却する。

※ 提出した楽譜（スコア等）は、返却しない。

※ バックアップとして PC、スマートフォンなどを持参する場合、オーディオ再生用のケーブルは備え付けのものを使用する。ただし、電源ケーブル(充電ケーブル)は持参すること。

※ インターネット接続を必要とする再生方法は、一切認めない。

# 指　揮

## 入学試験科目

**１．外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より１科目選択）**

大学入学共通テストの成績を利用する。出願者は大学入学共通テストの「外国語」を必ず受験すること。

「英語」は筆記とリスニングの双方を課す。

※上記に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できる。出願時に証明書の原本を１種類提出すること（文部科学省が公表した CEFR との対照表「Ａ２」以上）

・ケンブリッジ英語検定
・実用英語技能検定試験
・GTEC
・IELTS(Academic)
・TEAP
・TEAP CBT
・TOEFL iBT®

**2. 楽　典**

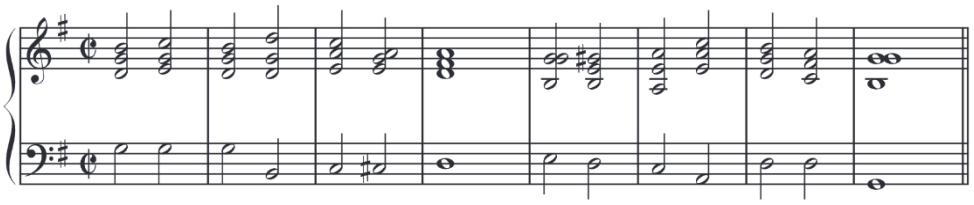
**3. 新曲視唱**　8 小節程度の旋律を 1 曲

別室で 1-2 分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

**4. 聴　音**　旋律聴音（8 小節程度）・・・・　各専攻共通 1 題および専攻別 1 題

和声聴音　・・・・・・・・・・・・　大譜表による四声（密集）、8 小節程度

［問題例］　G dur　ト長調　$\frac{2}{2}$ 拍子　8小節



**5. 副科実技（ピアノ）**

(1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第 1 巻、第 2 巻より任意の 1 曲（プレリュードとフーガ）

(2) 古典派ソナタより任意の 1 曲（第 1 楽章または終楽章。専攻別曲目記入票に楽章を明記すること）

※いずれも暗譜で演奏すること。

**6. 専攻実技**

**(1) 聴音：旋律（単旋律、二声および四声）の書き取り（四声は木管四重奏の録音による）**
**(2) 全ての音部記号を用いた旋律の初見視唱**
**(3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い**
**(4) スコアリーディング（2 管編成程度の管弦楽曲）**
**(5) 指揮実技**

（イ）2 管編成程度の管弦楽曲の初見指揮（演奏は 2 台のピアノによる）

（ロ）ロッシーニ：歌劇『セビリアの理髪師』序曲（ブライトコプフ版）（演奏は 2 台のピアノによる）

（ハ）ハイドン：交響曲 第 99 番 変ホ長調 Hob.I:99（ランドン版）（演奏は 2 台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる）

※（ロ）（ハ）は暗譜で演奏（指揮）すること。

(6) 演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）
(7) 和声（バス・ソプラノ課題「初級程度」1 時間）
(8) 小論文（1 時間）
(9) 口述試問